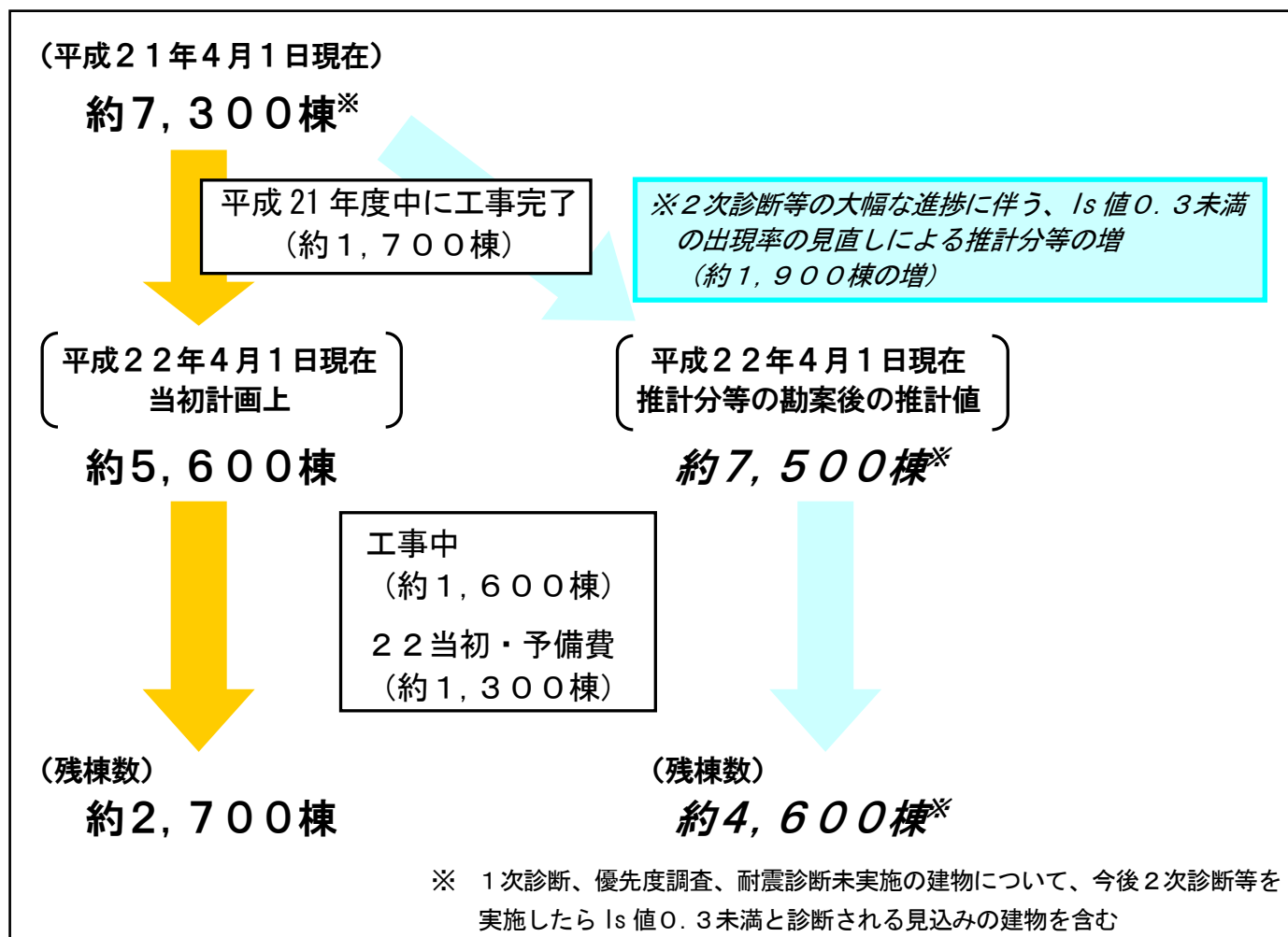


大規模な地震によって倒壊等の危険性が高い（ I_s 値0.3未満） 建物の推計値等（公立小中学校）



※ I_s 値0.3未満と推計される棟数が昨年から増えた理由（約1,900棟の増）

- 平成21年度は、2次診断等が大幅に進捗し、想定以上に I_s 値0.3未満と診断された。また今回、2次診断等による I_s 値0.3未満の出現率について、平成21年度の診断結果の実績も加味して再検討し見直した結果、今後2次診断等を実施したら I_s 値0.3未満と診断される見込みの建物が増えた。
- これらの結果、 I_s 値0.3未満と推計される建物は想定より約1,900棟増え、約7,500棟となった（平成22年4月1日現在）。
- なお、あくまで推計値であるため、来年度調査で I_s 値0.3未満の建物を推計する場合でも、想定通りの棟数とならない場合もあり得る。

※ I_s 値0.3未満の棟が残っている要因

- 財政状況が厳しい、統廃合計画が控えている等の理由により、 I_s 値0.3未満の建物について直ちに工事を実施できない地方自治体がある。
- 財政状況が厳しい等を理由に、2次診断等が実施できていない地方自治体がある。今後、2次診断等を実施したら、 I_s 値0.3未満と診断される可能性がある。
- 文部科学省では、地方自治体から要望された耐震化について全て予算措置してきたが、 I_s 値0.3未満の耐震化が済んでいる地方自治体を中心に、 I_s 値0.3以上の耐震化の要望が相当程度あげられ、この分についても耐震化を進めてきた。